

前週の動意銘柄

スノーピークはS高

21年12月期は37%営業増益

週明け15日、スノーピーク(7816)がストップ高。21年12月期は連結売上高で205億円(前期比22.3%増)、営業利益で20億5000万円(同37.3%増)と大幅増収増益を見込んだ。新規顧客創

オーケストラ大幅増収益

エントリー商材の継続訴求を実施する。オーケストラ(A Holdings)がストップ高。21年12月期は連結売上高で142億円(前期

大幸薬品 2割減益

大幸薬品(4574)は急落。20年12月期の連結決算は営業利益56億500万円と実質大幅増益で着地したが、21年12月期は45億円(前期比20.4%減)と大幅減益を予想したことが嫌気された。クレベリンなど感染対策製品の反動減を見込んだ。

資生堂は上方修正

3月期第3四半期の債務超過に陥った。FRONTEO(2158)がストップ高。21年3月期第3四半期累計の連結決算で、営業損益が6500万円の赤字(前年同期9億700万円の赤字)に浮上した。ライフサイエンスAIやビジネスインテリジェンスが好調でリーガル

正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は30年半ぶりに3万円大台に乗せましたが、週後半は急ピッチの上げの反動で利益確定売りやポジション調整売りに押されました。週末19日は長期金利の上昇や雇用情勢の悪化を嫌気して米国株が下落した流れを引き継ぎ、3日続落で一時3万円を割り込みました。もつとも、金融緩和と政策業業績の回復期待が相場を支えており、下値に変わりは

状況見極め慎重に対応

ただ、米グロース株の上は注意が必要で、物色の流れの変化など状況を見極め、慎重に対応する必要があります。推奨銘柄も弱含む銘柄が増えましたが、東映アニメ(4816)が新値追い、アドテスト(6857)やBASE(4477)は切り返しており、日立造(7004)とメルコ(6676)に買いを入れました。花咲翁



スノーピークの日足チャート



ニプロはワクチン注射器

16日、ニプロ(8086)が続騰。米ファイザーが開発した新型コロナウイルスワクチン用の特種な注射器の増産へ体制整備を急いでいると伝わった。当初一つの容器で6回の接種を想定していたが、用意した注射器では5回しかできず、

ヴァイア・ホールデル

ヴァイア・ホールデル(7918)が急落。事業再生ADR手続き利用を発表したことで手詰まり売りがかさんだ。新型コロナウイルス感染に伴う店舗休業などで売上高が減少、21年

FRONTEO

FRONTEO(2158)がストップ高。21年3月期第3四半期累計の連結決算で、営業損益が6500万円の赤字(前年同期9億700万円の赤字)に浮上した。ライフサイエンスAIやビジネスインテリジェンスが好調でリーガル

ADWAYS 18%自社株買

17日、アドウェイズ(2489)がストップ高。自己株

式取得枠の設定を発表した。上限750万株(発行済株式総数に対する割合18.02%)。または30億円で、取得期間は2月18日から8月17日まで。株主還元と変化に対応した機動的な資本政策を遂行するため。

イトーヨーカ堂 (200000)

21年2月期は利益上振れ 在宅時間増加で食品事業好調

上に粗利率の改善や販管費の減少が図れたことが利益を押し上げて

来期はM&A効果も

イトーアンドホールディングス（2882）は全国の生活協同組合や一般量販店、さらにはインターネットで「大阪王将」ブランドなどの冷凍食品を販売、これと併せて大衆中華料理の「大阪王将」を主力にラーメンの「よってこや」、「太陽のトマト麺」、ベーカリーカフェ「RBaker」などの外食チェーン店を展開する、食のライフプランニングカンパニーである。

外食事業では緊急事態宣言の3月7日まで延長による営業時間短縮などの影響があるものの、食品事業では2020年4月～12月の羽根つき餃子の販売数量は前年比116.0%、ぷるもち水餃子は125.44%とリモートワークの増加で在宅時間が増えたことで好調に推移。

特選銘柄

これに加えて当初予想していた以

おり、21年2月期（20年4月～21年2月）の業績予想を連結売上高で260億6600万円から257億円（決算期変更前の20年3月期は303億6100万円）へ、営業利益で営業利益で1億円から2億円（同8億1000万円）へ、最終損益で3億4200万円の赤字から2億1000万円の赤字（同3億4000万円の黒字）へ修正している。

1月に子会社化した一品香と一品香フーズの収益寄与も来期から期待される。



空運値上りトップ

ワクチン接種開始で旅客回復期待



院機待な正感た接ナにに空運株の2021年12月期の連結最終損益は261億1081万1000円（前年比100.9%）と、営業利益を2億2600万円から3億5700万円（同2.2倍）に引き上げている。

（9月）の17日、ANAは2億1000万円の赤字（前年比100.9%）と、営業利益を2億2600万円から3億5700万円（同2.2倍）に引き上げている。

アップル大幅増額も出尽し

ブリヂストン急反落

ター（東京・目黒）で接種され、今後は同機構など100病の医療従事者約4万人に接種、うち2万人について副作用の有無など接種後の健康状況を観察して定期的に公表される。ブリヂストン（5108）が急反落。21年12月期の連結最終損益は261億1081万1000円（前年比100.9%）と、営業利益を2億2600万円から3億5700万円（同2.2倍）に引き上げている。

公開価格41%上回る

18日、アップル（278）が急落。20年12月期の連結業績予想を大幅に上方修正したが、海外向け中古車輸出販売の急回復と経費節減による収益上振れは事前の観測されてきたように、当面の利益は尽く感から利益確定売りがかさんだ。売上高を1億7491万1000円から1億7491万1000円（前年比100.9%）と、営業利益を2億2600万円から3億5700万円（同2.2倍）に引き上げている。

企業観察

DmMiX (7354)

不動産・金融向けに意欲

ダイレクトマーケティングミックス(7354)の前20年12月期は連結売上収益で224億6100万円(前の期比30・5%増)、営業利益35億8600万円(同60・3%増)と大幅な増収増益で着地した。

今21年12月期は通期は売上収益268億円(前期比19・3%増)、営業利益38億円(同60%増)を見込み、配当は前期の5円から10円への増配を予定している。

前期の稼働人数は前の期比23・1%増の3773人となり、クライアント数も20社増の13

新規開拓、AI開発で今期予想は最低線

0社に拡大、今期は4415人までに増員を図る。

クライアントに関しては自治体を含めて公共向けが増えているが、新型コロナウイルス対応などで今期以降も高収益案件の増加は継続。これに更なる新規案件の拡大も収益寄与する。

「不動産や金融向けの新規案件獲得を更に進める」(会社側)とし、マッチング制度向上とコミュニケーションの業務効率向上を図るべくAI開発に重点を置く。

新規案件獲得とAI開発が進めば、今期予想は最低ラインといえる。

日東精工ストップ高

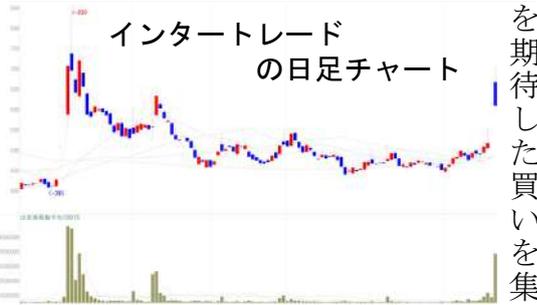
日東精工(5957)がストップ高。京都府の下、京都府立医科大学・富山大学などと研究開発に取り組んできた「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」の開発に成功したと発表した。生体内で溶解吸収される期間を制御できる純マグネシウム素材で、特定のインプラント部品などに用いられる。

アンビス稀薄化警戒

アンビスホールディングス(7071)が急反落。公募による新株発行と売出し、オーバーアロットメントによる売出しを実施すると発表したことで稀薄化と需給圧迫を警戒した売り圧迫による潜在株式の比率は6・7%。

前週の動意銘柄

18日、インターネットトレード(3747)がストップ高。関連会社のデジタルアセットマーケットが資金決済に関する法律に基づく暗号資産交換業者として関東財務局への登録が完了したと発表したことが材料視された。ビットコイン市況が活況を呈するなか、グループ収益への貢献



関連会社暗号資産交換業者に

インターネットトレードS高

週末19日、東京エレクトロン(8035)やアドバンテスト(6857)など半導体関連が反発。米ハイテク株安の流れから、前日までは利益確定に傾いていたが、半導体製造装置最大手の米アプライド・マテリアルズが発表した第1四半期決算と第2四半期見通しが売上高、EPSとも市場予想を上回り、時間外取引で株価が上昇、東京市場でも関連銘柄

半導体買い直す

めた。

手腕が試される局面

先週の東京株式市場は3週続伸し、30年半ぶりに3万円台に乗せる場面がありました。しかし、米長期金利が警戒水準としていた1・2%を突破したことでFANG銘柄などが下落。ナスダック指数は5日線や一目・転換線を下回りだし、TOPIXや日経平均も5日線を割り込みました。

ファーストリテイリングの10万円乗せが3万円台へと押し上げた格好ですが、指数よりも個別銘柄が先の調整色を強めており、日経平均採用銘柄の約半分が既に調整局面を迎えています。一部のヘッジファンドがインデックス運用からアクティブ運用に切り替えだしたと伝わっており、指数の上昇は止まったようです。

ここよりは個別物色へと移り、投資家の手腕が試されることとなります。予想以上に引っ張られた相場はその反動も大きく現れることもありますのでくれぐれも慎重に。

日々勇太郎

転ばぬ先のテクニカル

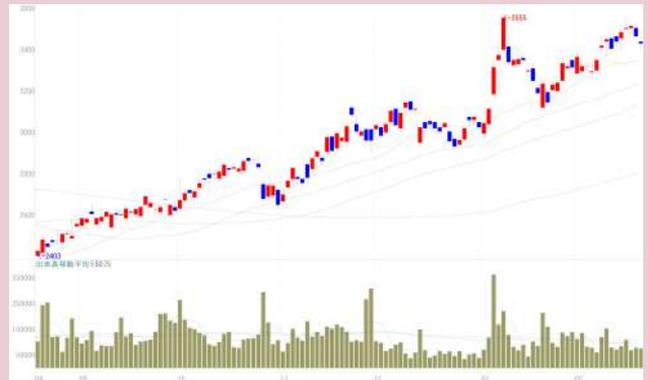
チャート から読む 騰落銘柄

NEC (6701)



2月3日に6500円高値更新後に調整続くも25日線の6000円トビ台意識して押し目は拾われる展開で、ここからの出直りに期待。5G投資で主力の国内基地局ビジネスの回復鮮明化も支援材料。

ダイセキ (9793)



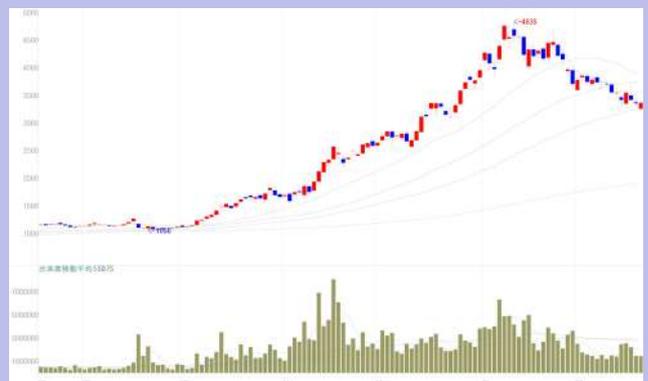
1月8日に昨年来高値3555円を付けた後、25日線レベルまでの調整を経て本格反騰へ。一段の収益上振れ観測に加え買戻しも株価を押し上げ、18年5月に付けた実質最高値3635円奪回から一段高へ。

ダイフク (6383)



2月8日に200日線割れとなる1万2500円まで突っ込んだ後に16日に1万1620円まで戻すも上値重い。今3月期の減収減益から来期増収増益転換期待も国内EC関連需要は頭打ち懸念あり。

レノバ (9519)



1月に付けた上場来高値4835円で当面の天井感。日足陰転のあとは5日線に上値を抑えられ下値模索が続き、13週線も割り込む。月足上値かい離はまだ大きく、26週線近辺の2500円までの調整も。

※チャートは日足

～決算情報～

新コスモス電機

3Q営業益73%増と急拡大 家庭、工業用とも堅調で付加価値品貢献

新コスモス電機（6824）の21年3月期第3四半期累計の連結決算は、売上高205億3500万円（前年同期比3.4%増）、営業利益22億1500万円（同72.5%増）、最終利益14億9700万円（同74.3%増）と利益が急拡大した。

都市ガス、火災警報機など家庭用ガス警報器が伸び、半導体や石油化学、電力業界向け工業用定置式ガス検知報知機も堅調に推移、独自のガスセンサ技術を生かした保安機器やIoT機器などの付加価値製品の貢献も大きく、直近3カ月の10～12月期の営業利益は10億9500万円（前年同期比3.5倍）と急増している。

通期は売上高295億5000万円（前期比6.4%増）、営業利益26億500万円（同21.3%増）、最終利益17億2200万円（同16.7%増）と従来予想を据え置いた。

クボタ

大幅増益で4期ぶり最高益 国内回復、海外も底堅く2ケタ超の増収

クボタ（6326）は21年12月期の連結業績について、売上高2兆500億円（前期比10.6%増）、営業利益2200億円（同25.5%増）、最終利益1580億円（同22.9%増）と4期ぶり最高益を予想した。

国内は機械、水・環境部門とも新型コロナ感染拡大に伴う低迷から回復、海外も機械需要が底堅くディーラーへの卸売が前期からずれ込むことで北米が大幅増収になり、水・環境部門も拡大する。2ケタ増収と増産による生産性改善効果で円高の影響を吸収して2割超の大幅増益を見込む。想定為替レートは1ドル105円、1ユーロ125円。

20年12月期の連結決算は営業利益1752億8400万円（前の期比同13.1%減）だったが、直近3カ月の10～12月期は453億9700万円、28%増益に転じた。

購読会員募集中！

高野恭壽の
株式情報 **これでどや!!**

アンジェスは紹介後に株価6倍化！！



<https://marketpress.jp/kabu-takano/>

株式市場新聞

www.marketpress.jp

潮流

3万円で驚いてはダメ

失われた30年を取り戻せ!!

marKet / bAnk



会議で、新型コロナウイルス危機からの脱却へ「今こそ大胆な財政出動に踏み切るときだ」と主張した。バイデン米政権は1.9兆ドル(約200兆円)の追加対策を実行しようとしている。日本とヨーロッパは景気回復がもたつており、各国にも協調的な追加策を促した。

米連邦準備理事会(FRB)前議長のイエレン氏は財政出動の必要性を完全に理解している。残念な事に日本は全く理解していない。日本が20年間デフレ経済から脱却できず、経済が衰退した最大の原因は必要な財政出動をしなかったからだ。ようやく昨年からのMMT理論が広まり、少しずつ財政出動の必要性を理解し始めた。日欧は新型コロナで再び経済活動の制限を余儀なくされ、景気に停滞感がある。イエレン氏は米国が大型の追加財政出動に踏み切る考えを強調し、各国にも「G7として、現時点でできる追加的な経済支援策に注力すべきだ」などと訴えた。

日本経済はバブル崩壊後、長期の停滞期に入り、名目GDP(国内総生産)は90年に3.1兆ドルであったが、現在は5.1兆ドルにとどまる。米国は6兆ドルから21.9兆ドルに拡大した。



イエレン米財務長官は2月12日の主要7カ国(G7)財務相・中央銀行総裁

会議で、新型コロナウイルス危機からの脱却へ「今こそ大胆な財政出動に踏み切るときだ」と主張した。

米連邦準備理事会(FRB)前議長のイエレン氏は財政出動の必要性を完全に理解している。残念な事に日本は全く理解していない。日本が20年間デフレ経済から脱却できず、経済が衰退した最大の原因は必要な財政出動をしなかったからだ。ようやく昨年からのMMT理論が広まり、少しずつ財政出動の必要性を理解し始めた。日欧は新型コロナで再び経済活動の制限を余儀なくされ、景気に停滞感がある。イエレン氏は米国が大型の追加財政出動に踏み切る考えを強調し、各国にも「G7として、現時点でできる追加的な経済支援策に注力すべきだ」などと訴えた。

日本経済はバブル崩壊後、長期の停滞期に入り、名目GDP(国内総生産)は90年に3.1兆ドルであったが、現在は5.1兆ドルにとどまる。米国は6兆ドルから21.9兆ドルに拡大した。

米ダウ工業株30種平均はこの30年間で3000ドルから3万1000ドルと10倍になった。

日本が米国と同じように株価が上昇していれば日経平均は30万円になる。日経平均が3万円台に上昇して驚いてはダメだ。30年前の水準に戻ったと言う事は30年間上昇しなかったと言う事だ。まさに失われた30年だ。

この30年の間、個人は株を一貫して売り続け、売越額は68兆円に達した。90年度末に20.4%だった個人の持ち株比率は2019年度末に最低の16.5%に低下した。日本人が手放した株を一手に引き受けたのが外国人だ。外国人の持ち株比率は90年度末の4.7%から17年度末には30.3%に上昇した。12年末からのアベノミクス相場が一巡すると、外国人は売り手に回った。受け皿となったのが上場投資信託(ETF)の購入を拡大した日銀だ。日銀保有のETFは昨年末で46.6兆円。年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)の45.3兆円を超え、日本株の実質的な筆頭株主になった。日本が失った30年を取り戻すには大胆な財政出動を行い、日本が進むべき壮大なビジョンを示すことである。

潮流銘柄はkaizen Platform(4170)、ココペリ(4167)、プレイド(4165)。



岡山 憲史氏(株式会社マーケットバンク代表取締役)のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは15.5%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

大胆な財政出動実施を

星野三太郎の株街往来

～ばら撒きの末路は？～

日経平均

が30年6カ月ぶりの高値となり、ビットコインも一時5万円に乗せるなど、あらゆるリスク資産が上昇している。

今がバブルかどうかは、後の時代にならないと判断できないだろうが、米国では生活支援のための給付金で個人がテスラ株を買って、株高で潤ったテスラがビットコインを購入し、一時は5万円に

乗せるまでビットコインが急騰した。筆者の身近なところでも、事実上休眠状態の会社で持続化給付金などの支援金をもらっていながら、昨年末に投資用マンションを購入した人間がいた。

その一方で、リストラで再就職探しに苦労する方が多く存在する。政府が未曾有のばら撒きを行うことはいい事だが、そのお金が本当に必要としている方に行き渡らないことに疑問を感じる。

この先、ワクチン接種の効果でコロナ禍以前の生活に戻れば、政府の給付金ばら撒きも終わりを告げることになり、その時には現状の株高や仮想通貨高も転機を迎えることになる。政府が財政難を理由に増税を行えば給付金で恩恵を受けなかった国民の不満が高まるだろう。



Sustainability Award

Gold Class 2021

S&P Global

S & Pの最高評価の「Gold Class」に選定

積水ハウス 「Gold Class」に選定

積水ハウス(1928)は世界的なSRI(社会的責任投資)分野の調査・格付け会社である米国S&P Global社がサステナビリティに優れた企業をまとめた「The Sustainability Book 2021」に掲載され、Homebuilding(住宅建設)部門において、最高評価である「Gold Class」(日本企業は同社を含め78社)、うち上位1%の特に優れた企業を選定している。

「Gold Class」に選定された。積水ハウスは2016年から6年連続での「Gold Class」選定となった。S&P Global社は、61業種のそれぞれ上位15%の企業を「持続可能性に優れた企業」(日本企業は同社を含め78社)、うち上位1%の特に優れた企業を選定している。



カプコン中途採用オンライン説明会&選考会

オンラインで開催

クリーク・アンド・リバー社

カプコン中途採用説明会&選考会

「4763」は3月6日に「株式会社カプコン中途採用オンライン説明会&選考会」を開催する。現在カプコンでは東京・大阪にてゲーム開発を中心に全40職種を大募集しており、今回の説明会では、カプコンの人事担当者に加え、3月26日発売予定の「モンスターハンターライズ」など、同シリーズの「プロデューサー」を歴任する辻本良三氏も登壇。募集職種の詳細やカプコンの社風、制作環境のほか、ここでしか聞くことができない「モンスターハンターライズ」の開発秘話を語る予定。

申し込みは <https://www.creativevillage.ne.jp/90537> まで。



クリーク・アンド・リバー社

記者の視点 相場見通し

大規模緩和の弊害警戒

ソフトバンクとファーストリテイテ

2月第3週の東京市場は2月16日に日経平均で3万714円52銭まで一気に駆け上がった後は、高値警戒感により19日には3万円割れまで売られた。今回の急伸で25日移動平均線との乖離は6・7%に広がっており、11月の急伸場面では7・7%、1月は6%とそれぞれ乖離した後に調整に入っていたことを受けて、一旦は利益確定売りを急ぐ動きになったようだ。

1月の急騰後と同様に1

先物では18日引け後の

うだ。



最近「大儲けできなくていいので、確実に稼げる投資方法はありませんか」と相談されることがよくある。「より確実ですか」と問い返すと「確実です」と言うから「確実はありません」としか答えようがない。コロナショック以来の東京市場はビギナーズラック相場だったのだろう。ミニ株投資の浸透もあって株式投資を始めた人が増えている。ただ、矛盾を抱えながらも投資を続けるなかで、独自のスタイルを確立するの資金を億単位に増やす人がいつの時代にもいる。

編集後記

984)とファーストリテイテ(9983)の上昇に支えられていることから、両銘柄の株価動向を注意深く見ておきたい。



ソフトバンクGの日足チャート
ファーストリテイテの日足チャート

今週のスケジュール

- 19日 米1月中古住宅販売件数 (20日:00)
- 22日 1月企業向けサービス価格指数 (8:50)
独2月Ifo景況感指数 (18:00)
- 23日 天皇誕生日
米2月CB消費者信頼感指数 (24日0:00)
- 24日 米1月新築住宅販売件数 (25日:00)
- 25日 米10-12月期GDP改定値 (22:30)
米1月中古住宅販売仮契約 (26日0:00)
- 26日 1月商業動態統計、1月鉱工業生産 (8:50)
- 27日 G20財務相・中央銀行総裁会議 (ビデオ会議)
- 28日 中国2月製造業PMI、中国2月非製造業PMI、中国2月コンポジットPMI (16:00)

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的正確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。